

# 令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

## ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていると思いますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>

【学校から】  
 ○1について、きずなアンケートに加え、生活ノートや生徒との会話、家庭との連絡を密に行い、生徒の心の状態を常に把握しようとしているが、昨年度に比べ、保護者の「4」「3」の割合が上がったのに対し、生徒の「2」「1」の割合が若干上がっているため、生徒に伝わるような指導や丁寧な対応が必要である。  
 ○2について、「4」「3」の割合が高く、良好な状態である。しかし、「4」と答えた生徒と教師の割合に差があり、「思いやり」ある行動に対する生徒と教職員の認識の違いが大きいと判断される。教職員は、緊張感を絶やさずに、アンテナを高くして、生徒の人間関係把握に努める必要がある。  
 ○3について、昨年度に比べ、教職員の「4」の割合が半減している点が気になる。長期にわたる臨時休校やコロナ禍で、教師側の心のゆとりが無かったことも影響していると考えられる。道徳・心の教育の充実の重要性を再度共通理解し、実践していきたい。

## ②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>

【学校から】  
 ○4について、「4」「3」の割合は昨年度と同様に高く、落ち着いた授業風気が想像できる。ただ、「1」と答えた生徒の割合が昨年度に比べ若干ではあるが増加している点、「4」と答えた生徒が10ポイントほど減少している点について、原因究明と魅力ある授業づくりに向けての研修・研究が必要である。  
 ○5について、「4」をつけた教職員が前年度に比べ11ポイント減り、「2」が5ポイント増えるという現状から、教材研究の不足が考えられる。「2」「1」と答えた生徒が昨年度の11%から14%に増加している現状を謙虚に受け止め、今後とも教材研究や「わかる」授業、「楽しい」授業づくりに邁進しなければならぬ。  
 ○6について、保護者、生徒、教職員がほぼ一致した高評価であった。授業での電子黒板使用の定着と一人1台配付となったタブレットの授業での活用促進によるものと捉えている。今後も、ICT機器の有効活用を全職員、全教科で行うために、定期的に研修を繰り返していく必要がある。

## ③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり
<p>子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>

【学校から】  
 ○7について、概ね良好といえる。学校では、保健委員会や給食委員会等の委員会活動や各種の通信によって、健康づくりへの意識を絶やさないようにしているが、コロナ禍の現在、その取組を更に充実させていく必要がある。

## ①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

8 児童生徒理解
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。</p>

【学校から】  
 ○8について、「2」「1」と回答した生徒の割合が昨年度比7ポイント増、全体の約2割に達している点が課題である。教職員は日頃から一人一人の子どもを大切にしているという意識をもって教育を進めているが、それが生徒に十分伝わっているか、日々の教育活動を再度振り返るきっかけにしたい。  
 ○9について、昨年同様概ね満足できる結果が得られている。今後も担任を中心に、報告・連絡・相談を密にしなが、組織的な対応を推進することで、「すぐに対応していない」と捉える約1割の生徒への支援にもつながると考えられる。  
 ○10について、保護者はおおむね良好と捉えているが、教職員も自信をもって「4」「3」と回答できるような取組が必要である。

## ②特別支援教育の推進

9 いじめや問題への対応	10 学校の支援体制
<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>

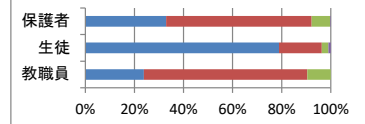
【学校から】  
 ○9について、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。  
 ○10について、学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

## ①子どもたちの身近な安全対策の充実

## ②最適な学習環境の整備

### 11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

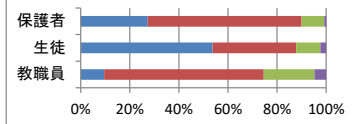


【学校から】

○11について、交通マナーや不審者への対応等指導する機会が多かったからか、生徒の評価は高くなっている。しかしながら、コロナ禍で一堂に会して交通安全教室や避難訓練等ができなかったため、今後工夫していく必要がある。また、事故やトラブルを未然に防ぐため危機管理マニュアルも更新していく必要がある。

### 12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。



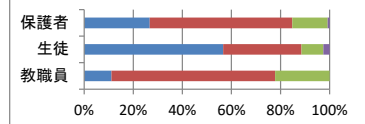
【学校から】

○本校の校舎、設備は全般的に老朽化が進んでいる。定期的な安全点検を丁寧に行いながら、校舎、設備の修繕作業を徹底し、「学校を大切に」心育成を行っていかねばならない。今後、更に生徒数が増加することが予想されるため、トイレ、水道を含めた大規模改修も視野にいれる必要がある。

## ③家庭・地域社会との連携強化

### 13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。

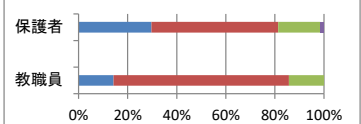


【学校から】

○教職員と保護者が一つのチームとして生徒を指導・支援していくためには、教育方針・目標の共通理解をさらに徹底する必要がある。今年度はコロナ禍で、年度当初のPTA総会や家庭訪問、授業参観や学級懇談会を含む学校行事がことごとく中止となり、「開かれた学校づくり」のために、家庭や地域との連携協力の在り方について工夫が求められる年となった。これまでの「あたりまえ」を見直しながら、学校・学級通信、HPや安心メール、Zoom等、様々な手段、ICT機器を駆使しながら保護者や地域に発信していく必要がある。

### 14 家庭や地域との連携協力

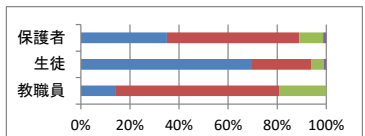
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



## ④本校の教育

### 15 あいさつ

生徒は、家庭や地域、学校でよく挨拶をしていると思いますか。

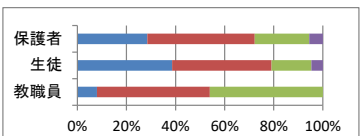


【学校から】

○15、17について、保護者、生徒ともに90%以上が肯定的に捉えている。しかしながら、教師が求める水準と生徒が「できている」「やっている」と捉える水準に格差がある。コミュニケーションの基本である、相手に伝わるような挨拶が、いつでも、どこでも、誰にでもできるよう、継続した指導が必要である。  
○16について、教職員の「4」「3」の割合が昨年度比13ポイントも減少、全質問項目の中で最も評価が低い結果となった。タブレットも一人一台配付されたため、その活用も視野に入れながら、生徒が「やってみよう」と思えるような課題の提示、授業と家庭学習との連携、関連性等を含め、教師に工夫が求められていると考えられる。挨拶の意味、家庭学習の目的、きまりを守ることの意義を、一人一人の生徒が理解できるように、担任を中心に生徒指導部、特活部、研究部等が連携して指導・支援していく必要がある。「あ（挨拶）・ふ（服装）・じ（時間）」の徹底や「無言排除」、校訓「自主・勤勉・協調」が単にスローガンにならないよう、しっかりした手立てを講じていかなければならない。

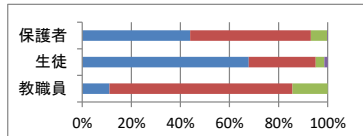
### 16 家庭学習

生徒は、家庭学習に取り組んでいると思いますか。



### 17 きまりを守る

生徒は、学校や社会生活のきまりを守っていると思いますか。



## 来年度の具体的な取り組みについて

- 教育目標方針については、さらに分かりやすく、学級・学校便り、学校ホームページ、PTA新聞、PTA総会、家庭訪問等、あらゆる機会を通して情報発信を行う。
- 新学習指導要領全面実施を踏まえ、生徒にわかる喜び、学ぶ楽しさを味わわせるために、毎時間の授業を充実させるための教材研究とタブレット等のICT機器の効果的な活用を中心とした授業改善、評価の在り方の理解を深め、校内研修等を入れる。
- 熊本市学力テストのSYENシステムや全国学力学習状況調査を受け、一人一人の学力を分析し、校内研修等を通じて個に応じた学習の充実ときめ細かな指導の工夫改善に努める。
- 一人一人の生徒を大切に教育を推進するために、生徒や保護者、地域のニーズに応じていく必要がある。そのために、情報の発信、伝達、共有、実践を的確に行う体制を確立する。また、生活ノートや日頃の関わりを通して、生徒や保護者の「思い」を大切に、常に寄り添いながら対応するよう心がける。さらに、生徒指導主事や特別支援コーディネーターを窓口、児童相談所等の外部機関や専門機関との連絡相談を絶やさず、的確な指導・支援が随時行えるようにする。
- PTAや地域の諸団体と連携しながら、挨拶、交通マナーなどの規範意識を育てる指導の充実を図る。
- 安全、食育、道徳・総合・教科学習の面から、保護者・地域との人材交流、情報の共有をさらに進め、地域に根ざした教育を充実させる。
- コロナ禍は続くことが予想されるため、「新しい生活様式」を常に意識して、換気、こまめな手洗い、マスク着用等徹底させる必要がある。併せて、自他の健康を守るため、基本的な生活習慣、マナーの確立を図る。
- 校舎の老朽化によって破損箇所が生じたら、すぐに教育委員会へ連絡して必要な措置を講じる。今後、ますます生徒数が増えることが予想され、プレハブの増設も予定されているので、安心・安全な環境が提供できるよう、保護者、地域の方々や教育委員会と連携・協力を進めていく。

## 学校関係者評価

- 今年は中学生との触れ合いが少なく、久しぶりの来校だったが、いつもと変わらない生徒の様子にホッとした。コロナ禍での学校の対応、先生方の心情は察するに余りある。
- 学校図書館の存在の大きさを改めて感じるとともに、図書館司書の先生の工夫に感心させられた。中学時代に本とふれあうことの大切さをぜひ子供たちに伝えたい。
- こういう時期だからこそ何かできることはないか、振り返りながら生活している。何もかも縮小するのではなく、普通だったらやらないが、こういう時期だからこそ行う、といった場を工夫して創り出してほしい。
- 質の高い教育を大切にしたい。
- これだけの大人数なのに、とても学校が落ち着いていて安心したし、とてもすばらしいことだ。
- 今職場でも、Zoomやオンラインの活用が始まり、生徒たちがタブレットをどのように活用するのが楽しみに来校した。タブレットは便利であり、ICTの技術が日に日に進歩する中で、どう止めを利かすかも問題ではないか。画面を注視すると目に悪いため、6m先を見るなど、目を休ませる時間も必要。
- コロナ禍で子供の発散する場はあるのか心配していたが、学校で子供たちの思い出を作る工夫をしてもらい、感謝している。子供たちにとって、頑張った成果を発表することは、勉強と同じぐらい大切なことである。ぜひこれからも、沢山子供たちに思い出を作らせてほしい。
- 授業を参観し、とても落ち着いていた。前回参観した時よりも、先生たちのタブレット活用スキルがアップされている印象を受けた。これからがとても楽しみ。小学校でも一人1台タブレットが支給されたので、そういう子供たちが中学に今後上っていくため、先生たちもそれに合わせてさらに活用されることを期待している。
- 合唱コンクールで毎年子供たちがまとまってくるのが通例だっただけに、それができないのが残念である。